

2018年6月1日

富士ゼロックスの高度な複写技術を駆使し、諫早市立 諫早図書館所蔵「領内南部図」を複製、文化伝承に貢献

富士ゼロックス長崎が諫早市に贈呈

富士ゼロックス長崎株式会社（本社：長崎市 社長：清村 栄一）は、伝統文化継承に貢献する活動の一環として長崎県諫早市立諫早図書館に所蔵されている「領内南部図」^注の複製を製作、6月1日、諫早市美術・歴史館で行われる贈呈式で当社代表取締役・秋山富也から諫早市の宮本明雄市長に贈呈いたします。贈呈するレプリカは諫早市美術・歴史館で所蔵され今後展示されます。

古文書などの伝統文書の原本は劣化のおそれがあるため展示期間も限られるほか、不特定多数の閲覧者が手で触れることができないことが一般的ですが、複製品であれば、所蔵者は劣化の心配なく展示できます。また、直接手にとり感触も確かめることができるため、文化伝承に貢献できます。

「領内南部図」は300年以上前に基本的な土地情報を描いた絵図で、赤や緑など多くの色を使用して11種類の道や境界、畑や田などが描かれ、山や川の形状、河川、海岸線、神社や寺院や一里塚、地名が書かれており、領内の土地利用状況がひと目でわかるものです。複製品製作にあたっては、富士ゼロックスのカラーマネジメント技術を活用し、電子化した画像情報を和紙に出力して原本の風合いを再現しました。



出力においてはグラフィックアーツ市場向け高画質フルカラー複合機「[DocuColor 1450 GA](#)」を活用し、表面に凹凸がある和紙にトナーを定着させるための特殊な設定を加え、製作しました。また当時の和紙の質感に一番近い長方形の和紙を212枚貼り合せ、縦492cm横352cmで、畳12畳分に相当する大きさになっております。

富士ゼロックスは、社会貢献の一環として伝統文書の複製を通じた文化伝承活動を2008年から実施。現在は研究・開発の主要拠点である富士ゼロックス R&D スクエア（神奈川県横浜市）および京都を拠点とし、これまで神社仏閣、市町村、大学、企業などに250点以上の複製品を贈呈しています。

富士ゼロックス長崎は、地域社会への貢献も企業としての責務であるとの考えから、支援活動のひとつとして今回の古文書複製を行いました。また、変化し続ける環境のもと、地域社会のお役に立てる、そして愛される企業を目指してトータルソリューション提案およびサービスを展開しております。

今後も当社は「地域のために、地域と共に」のスローガンをもとに長崎県内の地域社会の発展や活性化に貢献してまいります。

注：1697年江戸時代中期に製作された絵図で諫早市の基本的な土地情報を描いた最も古い地図といわれている。諫早家代々に伝わっていた佐賀藩諫早領内を描いた絵図1枚である。（佐賀県太良町から長崎県諫早市小長井・高来地域）法量縦492cm×横353cm（和紙貼り合せ212枚）同じ絵図を5枚接合し、諫早領全体の絵図となる。江戸時代には全国を政治支配するための基本資料として幕府が各藩に国別の国絵図と土地台帳を提出することを求めており、佐賀藩が自国（肥前国：ひぜんのかに）の国絵図を作成する際に基礎資料とするため、藩内の各領主へ提出を求めた絵図であろうと考えられる。

・Xerox、Xerox ロゴ、および Fuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。